

ヒラメ放流技術開発調査事業（要約）

増養殖対策科 石 井 功

当事業報告書は別途「平成 8. 9 年度ヒラメ放流技術開発調査事業報告書 H10年 3 月 高知県他」として既刊されているのでここでは要約にとどめる。

1. 飼い付け手法の開発

土佐市宇佐竜漁港で 5 月 8 日ヒラメ稚魚（平均全長 35mm）20,000 尾放流し、その後 10 日間配合餌料を給餌し飼い付けした。昨年より多めの投餌量（1 kg / 回 * 2 / 日）とした。潜水を主として港内の稚魚の分布、成長、食害生物等の調査により昨年の結果と比較した。

2. 放流魚の追跡

放流魚の分散状況は 2 日目には堤防と岸壁に沿って港口付近にまでいて、昨年の様子（投餌する岸壁付近に止まっていた）とは異なっている。5 日目には放流点付近の岸壁の分布密度も減少してきた（15 ~ 17 尾 / m²）。10 日目には更に少なく（0 ~ 2 尾 / m²）なった（昨年は港口付近に達しているものの放流点付近の岸壁にまだ止まっていた）。成長や配合

餌料等の摂餌状況は昨年と似たような傾向を示す。港外の放流魚の追跡は潜水を中心として汀線を 5 カ所実施した。放流魚は見つからなかったものの天然のヒラメ稚魚（全長 56 ~ 212mm）を砕波帯（水深 2 m まで）で採捕した。

3. 季節別餌料生物量の把握

ブッシュネットを使用してヒラメを放流した後の 5 ~ 6 月に 2 カ所（竜の浜、導流堤南）で、汀線を中心にして水深別、S T 別に 6 回曳網した。アミエビのよく取れるのは比較的流れのある底質の貝殻混じりの礫の砕波帯であった。この場所は天然のヒラメ稚魚がいる所と一致した。

4. 餌料競合種の把握

ヒラメの放流前後に刺し網、投網、潜水により餌料競合種を調査した。種類はアミエビではガンゾウヒラメ（全長 33 ~ 85mm）、ハチ（130 ~ 150mm）、ゴンズイ、キス、ダルマカレイ、天然のヒラメ等であった。魚類になればコチ類、エソ類等も入る。